

2017年3月21日発行

エコ・リサ通信

第 98 号

特定非営利活動法人
埼玉エコ・リサイクル連絡会広報

エコ・リサイクル交流集会 2017 報告

平成 29 年 2 月 18 日（土）大宮ソニックシティ 市民ホール第一集会室において、「エコ・リサイクル交流集会 2017」が 64 名の参加を得、開催されました。

石川恵輪会長の主催者挨拶の後、ご来賓の埼玉県環境部資源循環推進課 課長 安藤 宏様、公益社団法人 日本青年会議所 関東地区 埼玉ブロック協議会 2017 年度 副会長 星野 弘明様にご祝辞を頂きました。

エコ・リサイクル交流集会 2017 「美しい自然を残そう！」
～市民団体・産廃企業の先進的な取り組みを聞く～

基調講演石坂産業

「自然と地域と共生する環境経営」

講師：石坂産業株式会社 専務取締役 石坂知子氏



石坂産業株式会社は、1967 年に土砂処理業石坂組として設立されましたが、まだまだ使えるものがどんどん捨てられていることを危惧し、1975 年に産業廃棄物収集運搬処理業を開始。その後 1982 年に現在の三芳町に移転、1986 年現在の名称に商号変更されました。

環境に配慮した取り組みを次々に行い、“もったいない”の心を持って取り組んでいます。環境 ISO 取得、日本生態系協会の JHEP 認証

“AAA”取得のみならず、経済産業省の「おもてなし企業選」選定、日本掃除協会主催の「掃除大賞」「文部科学大臣賞」のダブル受賞、環境省の「グッドライフアワード 2015 環境と企業特別賞」等々受賞している石坂産業さんですが、ここまでの道のりは並大抵なものではなかったようです。

1999 年の農作物ダイオキシン汚染のマスコミの報道では、その矛先が石坂産業に向き、言われなき会社批判となってしまいました。取引先からも相手にされず、2001 年には裁判にまでなってしまうそうです。しかし、奮起した社長が、徹底したリサイクルと、社員からも反対されながらも取り組んだ社員教育や環境に配慮した活動は今それぞれが実を結んでいる形になっています。

本業の産業廃棄物処理は 97%再資源化のレベルで、業界随一！社員はリサイクル業としての誇りをもって仕事をしており、総合マネジメントシステム同時取得（ISO 国際規格 7 種統合取得）や、ホワイト企業大賞等受賞は数えきれません。

リサイクルの作業は、外部に騒音や粉塵が漏れないよう大きな建物の中で行われており、そのプラントの屋根を利用した屋上緑化や太陽光発電、雨水の利用、また、屋内作業のための電動重機の開発や利用、省エネ集塵システム等環境に配慮した工場となっています。

また、もともとこの地域にあった豊かな里山が、手入れもされずに荒れていたり、大量のゴミが捨ててあったりしていることを愁い、その荒れた森を整備し、里山の保全のため公園（花木園）にしました。

地元とのかかわりを大切にし、“三富地域”の農産物を広めたり、環境保全の意識を高めたりするためのイベント等に利用されており、会社のプラントも含め施設全体が「五感体験ツアー」として提供されています。リサイクルを学びながら、里山の自然や産物を楽しみながら、資源の大切さに気づき、日本本来の「おもてなし」の心を継承できる場所となっています。



敷地内には交流プラザ（くぬぎの森交流プラザ）も建てられセミナーや講演会、学習会などに利用されています。農業体験や里地里山体験、足湯、日本ミツバチの蜜や地元野菜で作られたお弁当や自家製小麦粉で作られたパン等々楽しみながら学べる様々なプログラムも用意されています。また、この建物は防災用品の備蓄の倉庫ともなっているとのこと。

“もったいない”から始まった産業廃棄物処理業、その会社ならではの里山管理、そこから生まれた産物を使ってのイベントや地域の清掃作業等 社員教育だけでなく地域や取引先に理解してもらうための努力が感じられました。今回は新しく考案された会社のロゴがお披露目されその経緯や意図を熱く語っていただきました。創業 50 年、これからの 50 年を見据えた石坂産業らしい素晴らしいロゴに感激しました。



報告：中澤 啓子

税理士法人 T&M ソリューション

毎月第2水曜日は「税の無料相談日」お気軽にお問い合わせください！

お問合せ ☎ 03-5829-9664 E-mail info@tms.or.jp

「市民・行政・企業の垣根を超えた取り組み」

講師：環境ネットワークよしかわ 会長 島崎 允行氏

1. 環境ネットワークよしかわ設立の経緯と推移

- * 平成12年3月、吉川市環境保全指針策定、14年11月、環境8団体・専門委員会設立。
- * 平成15年、吉川市環境まちづくり委員会条例制定、吉川市環境まちづくり委員会発足。10団体・個人8名が参加。環境フェスティバル及び環境展開催。出前講座メニュー20講座、エコチャレンジを制定。(ここまで市が主導)
- * 19年4月、ボランティア組織として市から独立。「環境ネットワークよしかわ」発足。

2. 会発足より27年度までの主な活動(多数なので一部ご紹介を割愛)

- * 19年6月、市・教員委員会と協働し、出前事業を開始。市民祭りの実行委員として関与。
- * 22年から自然観察会を毎年6回開催。ホームページ開設。喫煙マナーアップ啓発運動。市民活動サポートセンター発足。緑化推進運動開始(緑のカーテン等、以降毎年実施)。
- * 23年4月、小松川工専工業会・環境部会(13社)が賛助会員になる。隔月に工場内の環境パトロールを実施(次第に工場内が綺麗になる)。工業団地夏祭りに参加。
- * 24年7月、児童館と共催で夏休みワクワク環境教室開催(毎年実施)
- * 27年5月、吉川美南高校とボランティア活動協定を締結。12月、子育てフェスティバルに参加。(他団体及び行政と協働)
- * 28年、市長が「COOL CHOICE」宣言し、吉川版冊子(スゴロク方式)作成。新規に夏休みエコスクール開催。市制20周年記念事業(桜まつり、川まつり)に協力。

3. 最近の活動紹介(平成28年度、多数なので一部ご紹介割愛)

(1)委託事業(5項目あるが2で述べた毎年実施分割愛)

- ① 学習発表会・講演会開催(NHK ラジオ気象キャスター伊藤みゆき氏)
- ② 環境学習教室事業(学校へ21講座実施)(メニュー34講座準備の中から選定、体験が主体)
- ③ マイバッグ持参促進事業(大型6店舗で持参率等調査)
- ④ 生ごみの減量と再資源化事業(段ボールコンポストの継続)

(2)独自事業(8項目あるが2で述べた毎年実施分割愛)

- ① 環境フェスティバル開催(小学生の環境活動発表会他)
- ② 環境展の開催(6月環境月間行事、市民交流センターと協働)
- ③ 家庭版ISO(吉川版エコライフDAY)“エコチャレンジ吉川”の推進(市・教育委員会協働)
- ④ 環境団体支援活動(毎年、数団体に助成金)、HPの充実(毎月更新)
- ⑤ 他団体との交流(市民交流会、市民祭り、桜まつり、おあしす祭り)

4. 活動を進める上での考え方(一部紹介)

- ① 広く全体を考え、活動は足元から。
- ② 市民の団結が行政を動かし、企業もついてくる。

その他参考になることが多数ありますが、紙面の都合で省略します。

報告：土淵 昭

創業
昭和3年 **珍来**

www.chinrai.co.jp

「都市型堆肥化事業の試行錯誤とその歴史」

講師:大村商事株式会社 代表取締役 大村相哲氏

1 会社紹介

- ・当社は、埼玉県志木市・朝霞市で一般廃棄物業を営む都市型の堆肥業者です。今年の3月で、事業をやり始めて18年です。
- ・事業内容は、①家庭系一般廃棄物の収集事業、②し尿・浄化槽清掃・不用品回収・遺品整理、③産業廃棄物や事業系廃棄物の収集・木質系バイオマスの堆肥化です。



2 失敗の例

(1) 事業に対する考え方

生ごみを堆肥化して地域に還元すれば、事業は成り立ち、採算がとれると思った。

(2) 近所への迷惑

- 悪臭・・・会社の門の看板に「臭い」「臭い」「臭い」と書かれた。
- ハエ・・・ハエが発生し、ご近所まで広がってしまった。
- 火事・・・自然発火により、4回火事を起こした。

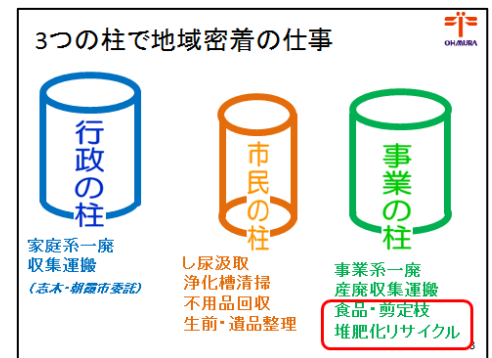
3 対策

(1) 事業に対する考え方

堆肥は売れるのか。堆肥はきちんと製造できるのか。原料となる生ごみ、剪定枝は確保できるのか。という順に考えなければいけない。

(2) 近所への迷惑

- 悪臭・・・生ごみに剪定枝のチップを混ぜて、悪臭の発生を押さえた。
- ハエ・・・生ごみに脱皮阻害剤を加え、ハエが成虫になるのを防止した。
- 火事・・・刈草は2週間に1回は切り返しを行うことにし、自然発火防止に努めた。



4 成功について思うこと

- ・何事も、簡単なことから、難しいことにチャレンジすべき
- ・規模は小さいところから、経験を積み上げ大きくしていく。
- ・リサイクルに関しても、下流から始めて上流に行く。
- ・「考から行」→「行から考える」、考えてから行動するだけでなく、行動してから考える、試行錯誤することが重要。
- ・情報を線引きして分けること、知っていることなのか、どこからが知らないことなのかを明確にする。

5 今後のビジョン

- ・バイオマスリサイクル事業を維持発展させる。
- ・地域の役に立つため、地域に貢献していく。
- ・地域の人に信頼を得て、3R(リサイクル、リユース、リデュース)をPRしていく。

その他、参考となる教訓が多数あります。

報告:さって市民環境ネット 坂本達夫



読売旅行

読売旅行「あなたの街から」いい旅 いつも これからも
さいたま営業所 ☎048-640-4343 FAX048-644-7674

「環境配慮を考えたごみ処理」 食用廃油回収 0円～遺品整理まで

講師：(有)後藤衛生コンサルタント 顧問 山田 胤雄氏

(有)後藤衛生コンサルタントと、(株)ゴトーとの2社でゴトーグループを形成している。企業理念として居住環境や自然環境などにも配慮した行動をすることを目標に掲げている。社長は、「NPO 法人エコネットくまがや」の代表理事でもあり、グループの仕事は、環境衛生の推進と向上に努め、し尿汲み取り業から、浄化槽施工、保守点検・清掃、官渠・管内、店舗からのごみ・不用品回収、遺品整理、食用廃油の無料回収、しゅんせつ工事、住宅の外構、公共工事など。

・環境も含めて隔月一回定期的に社員研修をし、当社の社員は「自然環境を守る活動を通じて社会貢献をすることが必要である」との認識を共有している。

環境学習の例とゴトーグループの取り組み

* 日本一の暑さを記録した熊谷から、暑さ対策日本一へ！

→ 市民と施策を考え実行 毎年8月の「打ち水大作戦」もその一環

* 地球温暖化を防止するために CO2 排出を抑える

→ 食用廃油の無料回収 カーボンニュートラルのてん



ぷら油からディーゼルオイルを生成して、ゴトーグループの作業車両の燃料としている
協力した市民にはポイントカードを発行して還元



* 3R リデュース（発生抑制）リユース（再利用）リサイクル（再資源化）

→ 社内では、分別を徹底して、びん・缶・ペットボトルを資源に。

・時代に合わせた不用品処分として

* いわゆるゴミ屋敷の片付け→県営住宅の例：作業に8人、パッカー車2台、ダンプ2台、フックロール車2台が必要。大変な手間がかかる。

* 遺品整理→必ず依頼者の立ち合い 高額のお金や貴重品が出ることも。

・地域の水環境を守るために、浄化槽の設置促進と、維持管理の大切さを市民に紙芝居「ふわ



ふわ ピッチャン」（埼玉県環境部製作）を利用してお知らせ。最後に、地球の資源は限りがあり、自浄作用にも限度がある。次の世代に青い空と豊かな自然を残してあげるために、今、私たちにできることから一歩を踏み出したいと思いますと締めくくられた。

事業と環境配慮が相まって展開している、強い意志を持った事業者がいることをうれしく思った。

報告：轟 涼



街を遊ぶ！食べる！極める！

www.townnavi.info/saitama

質疑応答

石坂産業様への質問

Q 社員を巻き込んで活動する場合、どの様な動機付けやモチベーション向上の方法を用いていますか。また、ほとんどの活動は業務時間として実施されているのですか？

A 各社員の資格情報が見られるようになっていて、例えばある社員は大学生の頃に栄養士の資格を取っている。メニュー開発に携わらないかと提案し、今は社員向けの健康弁当のメニュー開発はその社員がメインで頑張っています。その人の適材適所を考え、仕事はやらされるのではなく、考えて楽しんでもらえるように仕掛けをしています。石坂技塾は二本立てになっていて、一つは選抜制で階層式教育を行っています。日中の時間を利用して、ピックアップした社員を集めて行っています。それ以外に、年間48のカリキュラムを時間外に実施しています。自己啓発という形なので残業代はついていません。給料に反映されているかという点と人事評価とは別です。

環境ネットワーク吉川様への質問

Q イベントの参加費はありますか？ 資料代等はいただいていますか？

A かなり話し合い我々はボランティア団体であるということで費用を取らないということになった。

Q 夏休みワクワクお楽しみ教室では子供たちの反応は？

A 毎回150名以上の参加者が続いていますので評判がいいのではないかと思います。

後藤衛生コンサルタント山田様への質問

Q 水質改善を求めるなら下水道をすすめたら？

A 浄化槽なら安く自治体も得で皆さんの税金も効率的に使えますと説明をしています。

大村商事様への質問

Q 収支はいかがですか？

A 何とかプラスで月平均売上300～350万で営業利益が5%くらいです。

Q 長岡市は全市の生ごみを回収してメタン発酵させて発電させています。皆さんはそちらのほうに進出されますか？

A大村商事様 非常に興味があります。成功するのであれば是非とも考えたい。今バイオガスは試行錯誤の段階でまさにこれからが正念場ではないか。

A石坂様 原料が安定していないということで現在模索中というところですが、食品残渣は一般廃でこれから申請しても行政の許可が下りないので難しい。

A後藤様 新しい許可を取るのには難しい状態で今のところ考えていない。

大村様より追加情報 バイオガスの課題として液肥をどうするかが課題



一般社団法人 繊維リサイクル協会

<http://tera-jpn.or.jp/index.html>

「MOTTAINAI カード」による食品ロス削減に向けた実証実験について

1 食品ロスの発生状況

日本で1年間に発生する食品ロスは約632万トン（平成25年度推計値）で、そのうち約半分は

①食品の製造・加工を行う事業者、②食品の販売を行う事業者、そして③飲食店及びホテル・旅館

等の食品関連事業者から排出されています。

2 実験の目的・方法

今回の実験は、このうち特に飲食店における食品ロスの削減を目的に、食べ残しの持ち帰りによる食品ロスの削減効果について検証し、併せて、持ち帰りに関する県民の意識を調査することとしています。前号（エコリサ通信97号）でもお知らせしたように、「作った料理を残さず食べてもらいたい」というお店の気持ちと「この料理、家で食べたいな」というお客さんの気持ちを、埼玉大学学生の考案した「MOTTAINAI カード」がつなげてくれます。



ポスター



カード（表面）



カード（裏面）

3 実験協力店・実験期間

今回の実験は、埼大通り沿いにある居酒屋「YAMADA-YA」様と居酒屋「地球屋にんげん亭」様の2店舗に御協力いただき実施しています。どちらのお店もJR北浦和駅西口からバスで約15分、「栄和北町」停留所を降りてすぐ（所在地：さいたま市桜区栄和3-20-10）にあります。実験期間は、平成29年2月15日～平成29年3月31日までを予定していますが、好評であれば、さらに継続して行います。



YAMADA-YA 様



地球屋にんげん亭 様

お近くにおいでの際は是非お立ち寄りください。そして、もし料理が食べきれなかったら「MOTTAINAI カード」を御活用ください。

訂正のお知らせ

エコ・リサ通信第97号、6ページ4行目について、鴻巣行田北本環境資源組合を設立して、新規建て替え進行中とのことです。訂正しお詫び申し上げます。

また、ごみ処理費用について、エコ・リサ交流集会出席の北本市ごみ減量等推進市民会議の谷津様から、当初は12億円近くかかっていたものを6億円に減らしてきたとのお話をお聞きしました。

今後もエコ・リサ通信で地域の新しい動きの情報共有に努めていきたいと考えています。各地の取り組みの原稿募集中ですので、どうぞ事務局までご投稿よろしくお願いたします。



エコ・リサ25周年記念誌への原稿募集のお知らせ

エコ・リサの活動も、2018年には25周年を迎えようとしています。

その記念誌に、会員のエコ・リサにおける活動や取り組みについての寄稿を募集いたします!!今から、構想を練り、ふるってご応募くださるようお願いいたします。

ご応募は、ホームページ右下の >> お問い合わせ << よりお願いいたします。

第13期通常社員総会開催案内

日時:平成29年5月18日(木)午後1時~

会場:武蔵浦和コミュニティセンター 第7集会室

記念講演テーマ「エコ・リサの25年」(仮)

編集後記:今回のエコ・リサイクル交流集会2017は、「美しい自然を残そう!」~市民団体・産廃企業の先進的な取り組みを聞く~でした。まさに先進的な取り組みの多くを聞くことができた、素晴らしいものでした。通信では載せきれなかった全文については、ぜひホームページをご覧ください。轟 涼

司法書士竹内啓修事務所

お問合せ ☎048-963-6055 不動産・商業登記全般



食品リサイクル買取

検索

蛍光灯リサイクル埼玉

検索

廃棄物買取 ダンボール

検索

産廃処理業者
認定制度

産業廃棄物のことなら何でもご相談下さい。

ウム・ヴェルト株式会社 ☎0280-23-2641



ゴトグループ

快適な環境づくりのお手伝い。

村岡営業本部 ☎048-537-0555

ゴトグループ

検索

<http://www.510goto.co.jp>